

匠の技術にふれたくて
知っているようで知らない
ものづくりの現場を訪ねました。

大人の社会見学

廃食油が生まれ変わった バイオディーゼル燃料

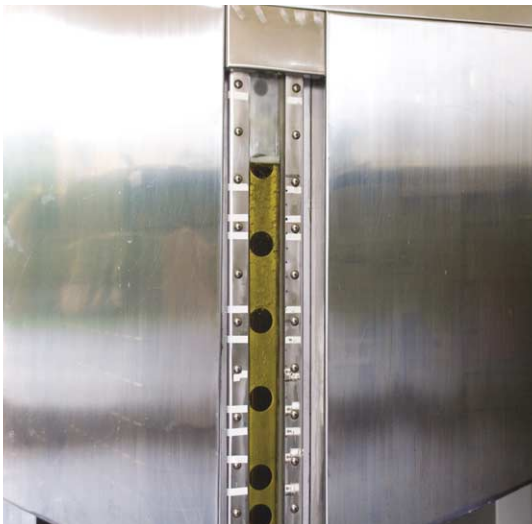
環境意識の高まりを受けて、
温泉の町で始まったリサイクル燃料開発
その力で今日も車が走り出す



幼保施設の送迎バスにも給油されている



一目で分かるラッピングのごみ収集車



廃食油からバイオディーゼル燃料へと精製するプラント

DATA

■ 有限会社清美社
* 新温泉町湯373 TEL.0796-92-0358
下水道処理施設の維持管理、一般・産業廃棄物
収集運搬、給水設備維持管理を手がける。

全国有数の温泉街である新温泉町を走るごみ収集車。実はこの車、使用済みてんぷら油など、廃食油から作られたBDF(バイオディーゼル燃料)で走っている。町内の旅館関係者や商工会等で結成された「みかたECO協議会」が行っている廃食油の有効利用への取り組みで、その中核にある清美社が回収・精製したものだ。

「温泉街があり、旅館や食事処が数多く抱える新温泉町では食用油が大量に廃棄されるので、その再利用は有効な手段。まさに会社と地域のコミュニケーションビジネスです。生まれ育った土地への貢献にもなるので」とは同社の西村常務。

廃食油再生事業への取り組みは平成20年、同協議会の設立に際し始まった。そこで、町内の技術力を持った企業ということで、産業廃棄物の収集、給水設備のメンテナンス事業を行っている同社に声がかかる。とはいえ、BDFの精製を行うには足りない技術・設備も多かった。だが、既に精製に取り組んでいる他県の企業へ視察に行き、ノウハウを蓄え、そして排水の出ないバイオディーゼル精製法を独自開発。水点下でも使用可能な燃料の開発に見事成功した。

これまで廃食油の回収を他県の業者に任せていた温泉街の多くの旅館も、地域活性化のためのコミュニケーションビジネスの考え方に賛同。現在は回収を同社が一手に引き受け、まさに町を挙げての取り組みとなりつつある。

現在BDFを給油した同社のごみ収集車6台が稼働中。町内での認知度の向上を目指し、ごみ収集車にラッピングを施した。また、同町の幼保施設の送迎バスにも給油されている。このことは子供たちへの環境教育にもなっていると西村常務は語る。

また、同協議会が回収した廃油を提供することで同社が提供する「協力金」から電動自転車や寄付金を新温泉町に寄贈。その取り組みが評価され表彰も受けた。今後は個人からも廃食油の回収を募っていく考えだ。

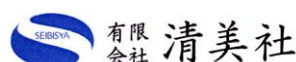
環境美化と地域活性化の願いを込めて、今日もバイオディーゼル車で町中を駆け巡る。

環境と人との調和を考える

私たちは地球環境と深い係わりを持つ活動を行うものとして、環境保全、回復を当社としての社会責任と認識し、会社全体で環境保全、回復、調和を目指して行動します。

環境方針

当社の下水道維持管理、浄化槽維持管理、産業廃棄物収集運搬活動の範囲で、環境マネジメントシステムの適切な運用により継続的改善と汚染の予防に努めます。



ISO14001 取得

〒669-6821 兵庫県美方郡新温泉町湯373
TEL: 0796-92-0358 FAX: 0796-92-1631
URL: <http://www.seibisya.net/>



但馬アーカイブ

2枚の写真から過去・現在・未来を探る

かずらはたのうそんかぶきぶたい 葛畑農村歌舞伎舞台

(養父市葛畑)



民家型入母屋造りの茅葺きとなっており、地下で舞台を回す「廻り舞台」、背景を天井から上げ下げする「ボウ棚」、舞台の外に突き出す「花道」など、農村歌舞伎舞台で入りな7つの機構がすべて備わっている。写真は昨年行われた一般公開の様子。上方歌舞伎を継承する松竹(株)の水口一夫さんの指導のもと、学校の合間や夏休みを利用し、厳し練習を行っている。



江戸時代から継承されていた葛畑の農村歌舞伎。明治3年に人版で歌舞伎を学んだ藤田甚左衛門が帰郷し、本格的な歌舞伎を地元農民が上演する「葛畑座」が結成された。写真は昭和39年の第1回復活公演の様子。

歌舞伎舞台一般公開 9月26日(日) 13:30開演 *養父市葛畑979
三番叢、春雨などの舞踊も上演される。舞台の写真撮影もOK。(向)関宮公民館 TEL.079-667-3266

活用してこそ価値のある重要文化財 但馬の屋根、氷ノ山に佇む農村歌舞伎舞台

養父市葛畑、氷ノ山のふもとにある葛畑農村歌舞伎舞台。天文13年(1554)に荒御霊神社境内に建てられたお堂を、大阪の歌舞伎小屋で勉強した3人の地元大工が、明治25年に芝居堂へと改修したものだ。

「私が子どもの頃は遊び場になっていたんですよ。奈落には水がたまっていたので板を浮かべて船にして遊んだり、屋根裏に上ったり。稲の脱穀場所にもなっていました」とは葛畑農村歌舞伎伝承会会長の西村武さん。昭和9年には戦争などの影響で歌舞伎が途絶えてしまっていたため、当時の歌舞伎舞台は生活の一部となっていた。昭和36年、解体寸前だった歌舞伎舞台は専門家による調査の結果、重要な価値があるものと分かる。住民による保存運動の末、昭和39年、41年に2度の復活公演を行った。そして昭和43年に国の重要有形民俗文化財に指定され、その価値に住民はとて驚いたようだ。だが、娯楽の多様化などの影響により歌舞伎の公演は長らく途絶えていた。

待し、舞台上で上演してもらったことが復活のきっかけとなる。

「昔は自分たちで演じていた歌舞伎。ぜひもう一度やろう」と歌舞伎を見た住民たちに火がついたんです」と西村さん。平成13年に屋根の葺き替えを行い、1年半以上もの厳しい練習を重ね、平成15年に37年ぶりの復活公演を果たした。そして次世代を担う歌舞伎役者を育成するため、同年から子どもたちによる農村歌舞伎講座と公演を毎年行っている。

「価値の高いものはどうしても、触つてはいけないというイメージがありますが、この舞台は使つてこそ価値のあるものなんです」と西村さんは話す。プロの太夫や役者の中には「こういう舞台でやりたかった」と絶賛する人もいるそうだ。

公演に携わった人々は「文化財で歌舞伎をする」ことによりプライドや優越感、自信が生まれてくる。その気持ちが歌舞伎と舞台を守り伝えていく原動力となっている。

協力：葛畑農村歌舞伎伝承会会長 西村武さん・養父市関宮公民館



「たんざんICバンクカード」好評取扱中 詳しくは窓口まで

「山陰海岸ジオパーク鷹の巣島(香美町)」

地域とともに発展する

但馬銀行
TAJIMA BANK